

大学の図書館

第41巻第2号 (No.579)

2022 2



目次

俺の囀りを聞け ミヤマシトドの魅せ方 河野由香里 ... 17

特集：バーチャルで魅せる

「ねっ、図書館」ネットで図書館体験：

東京工業大学附属図書館の動画コンテンツ制作 細川 真紀 ... 18

「バーチャル学芸大図書館」の取組みとオンライン館内ツアー 小野 令耶 ... 20

来館できない新入生のための「バーチャル」図書館ツアー 磯本 善男 ... 22

「桂図書館 Virtual Tour」紹介 長坂 和茂 ... 26

俺の囀りを聞け ミヤマシトドの魅せ方

河野 由香里

己の姿や行為に、他人の目が触れる時。どうか魅力的に映ってほしいと、僅かにでも関心を得ることができたらどんなに良いだろうと、願ったことはないだろうか。

なんのことはない。仕事の話である。我々の奉仕対象（利用者）を「想い人」と仮定し話を進めよう。想い人に我々のことを知ってほしい。こちらのアピールに耳を傾け、近づき、使える相手として選んでほしい。似た気持ちを抱いたことが、一度はあるのでないだろうか。

コロナ禍ただ中の昨今、利用者の微細な反応を汲み取りアピールできる「対面」の機会が限られている。そんな中、得た機会に勢い込み、「今しかない！」と情報量を詰め込んでしまうことはないだろうか。たとえ「5分だけでもいい」と短く訴えても、受け手の関心を得られないのなら、そのアピールは環境音となり、想い人は離れてゆく。

面白い事例をご紹介したい。サンフランシスコでロックダウンが実施される中、交通騒音が減り、ミヤマシトドという鳥のオスが複雑な囀りをするようになったという。大きく

叫ぶのをやめ、より静かで広い音域（帯域）で歌うよう変化したというのだが、なぜだろうか。

オスの囀りのゴールはメスに「聞いてもらうこと」ではなく「選んでもらう」ことだ。音が届きやすくなった環境では、音量より、小さくとも複雑な囀りの方がライバルと差別化でき、メスの関心（優秀なオス）に適合する。姿は見えねども、パフォーマンス力に興味を持ったメスは「どれ、どんな正体か」とオスに近づく…近づけさえすれば、次のアピールができる。

我々の想い人は、我々の姿を目にする機会が限られる状況にいる。そんな相手に近づいてもらうにはどうしたらよいだろう？ どうぞこのまま身を委ね、次の頁に進んでほしい。魅力的な魅せ方の例をご覧ください。

※ミヤマシトドの囀りについては下を参照されたい。

Derryberry et al. Singing in a silent spring: Birds respond to a half-century soundscape reversion during the COVID-19 shutdown. Science. 2020, 370 (6516), pp. 575-579, doi:10.1126/science.abd5777.

(この・ゆかり／北海道大学附属図書館)

特集：バーチャルで魅せる

今号はバーチャル(ヴァーチャル)、つまり触れる物としての実体がない環境にいる利用者に、仮想的、疑似的な魅せ方を試みている4つの大学図書館に事例をご執筆いただきました。

技術的な作成方法はもちろん、コンテンツの存在を認知させる導線の工夫、また学生の視点と発想を存分に活かしたものがあるなど、一口にバーチャルと言ってもいろいろな切り口があることがわかります。

コロナ禍の終わりが未だ見えない状況ではありますが、2020年4月に入学した学生はそろそろ卒業に向けた学修を進める段階にきています。学生にどうアプローチし、サポートしているのか、悩まれている方もいるのでないでしょうか。みなさまの今後の活動のご参考になりましたら幸いです。

(北海道地域グループ)

「ねっ、図書館」ネットで図書館体験：東京工業大学附属図書館の動画コンテンツ制作

細川 真紀

はじめに

東京工業大学附属図書館では、コロナ禍の2020年7月から図書館サポーターの学生と協働し動画コンテンツの制作をスタートし、2021年12月末までに18本のコンテンツを当館Webサイト『「ねっ、図書館」ネットで図書館体験』¹⁾で公開した(2022年1月に19本目を公開予定)。本稿では当館における動画制作の経緯を紹介する。

図書館サポーターとは

図書館サポーター(以下、サポーターと言う)は、図書館業務に学生の意見や発想を取り入れ、サポーター自身も大学への理解を深めることを目的に2010年5月に活動を開始した。2021年度は大岡山図書館²⁾に18名、すずかけ台図書館に5名が登録し、図書装備や返本、企画展示などの活動を行ってきた。

動画制作のきっかけ

コロナ禍以前、サポーターは新入生や大学見学に訪れた高校生への図書館案内、学園祭などで見学ツアーを行い、学生の視点で図書館の見どころを説明して好評だったが、感染拡大により、2020年3月に見学者の受け入れが中止、4月には学生の登校制限もあり、サポーター活動も休止した。そのような中で5月に課長から課内にAfter/Withコロナでできるアイディアの募集がかかり、バーチャル見学コンテンツの制作が複数名から挙げられた。それをきっかけに、サポーターが在宅で行う活動に謝金が支払えることを確認の上、6月18日に動画コンテンツ制作への参加呼びかけへと話が進んだ。

2020年度の動画制作活動

6名のサポーターから参加希望があり、7月16日に館長、課長、職員、サポーターによるキックオフミーティングをオンラインで行った。図書館からは、1) 3分以内の作品に仕上げること、2) 11月のオンラインオープンキャンパスでの公開を目指すことのみを伝え、東工大図書館の魅力を多くの方に伝わ

るよう、作風や作成方法は、自由で良いことを強調した。9月9日に最初の撮影が行われた。撮影に当たっては、サポーターから要望のあった360度カメラ『RICOH THETA』などを新たに購入した。その後もミーティングや撮影を重ね、編集作業を各自で進めた。各動画の最後に東工大図書館公式キャラクターを入れることで統一感を出した。

2020年度の作品について

予定した11月までに6作品が完成した。4作品「図書館へようこそ!」「360°カメラと行く館内ツアー」など新たに撮影、編集した動画には日本語と英語の字幕が併記された。また字幕はないもののYouTuberさながらの解説付きの2作品が完成した。

職員が最終チェックを行い、10月28日にはサポーターの活動成果をまとめた『「ねっ、図書館」ネットで図書館体験』から公開した。(ちなみにこのページのネーミングは、アイディアマンの職員が提案。)各動画には、制作メモとして撮影日時、撮影機材・動画編集ソフト・BGMに関する情報を添えることにした。作品は大学公式YouTubeにアップされ、11月8日のオンラインオープンキャンパスで公開された。職員も3作品を制作し、2020年度に公開した作品は合計9作品となった。

2021年度の動画制作活動

2021年4月にはサポーターに新規メンバーが加わり、5月17日に動画制作を行う8名とキックオフミーティングを行った。その後各自で決めたテーマに沿って撮影・編集作業等を進め、2021年度は12月末までに合計9本の作品を公開した。また、6月に小型カメラ(DJI Pocket 2 Creator Combo)を新たに購入し、撮影に活かした。

2021年度の作品について

前年に続いて学生ならではの発想が盛り込まれた作品が完成した。ここでは4作品を紹介する。

『「東工大図書館の音」作業用BGM』は、館内で書く音、本のページをめくる音、タイピングする音の3種類の音だけを収録したもので、YouTubeで人気の音だけの動画(ASMR)を目指した作品。いつでもどこでも図書館でレポートに取り組む気分を味わえる。

「チズケで1日を過ごしてみた」は、チズケ(大岡山図書館は地上部が三角形をしていることから学生からチーズケーキ、略称チズケと呼ばれる)で1日を過ごす様子を撮影した作品で、図書館で過ごす心地よさが伝わってくる。

「祝10周年!大岡山図書館の誕生秘話を安田先生に聞いてみよう」は、大岡山図書館が2021年7月に開館10周年を迎えることから制作した記念作品である。この作品は、制作担当のサポーターが自身の研究テーマに関係した「ランドスケープデザインや空間づくりと図書館」に着目し、制作した。大岡山図書館を設計した本学安田幸一教授ヘインタビューを行い、図書館が地下化された理由、地上部が三角形になった秘話などをまとめた。この10周年記念作品は、学内外からも注目され9月17日に国立国会図書館「カレントアウェアネス・ポータル」³⁾、10月14日に本学公式サイトトップページ⁴⁾、10月19日に図書館情報サイト「Jcross」⁵⁾でも取り上げられた。

また全面改修工事を行っていたすずかけ台図書館では、新しい書架に配架する様子をタイムラプス(コマ送り動画のように見える撮影方法)で撮影し、改修後の様子も盛り込んだ作品を職員が制作した。

さいごに

コロナ禍にあっても、動画を通じて当館の新たな魅力を発信できた。短期間にこれだけ質の高い作品を公開できた要因は、何と言ってもサポーターの企画力と実行力に尽きるが、メールに代わるツールとして「Slack」を活用したことで気軽に進捗確認や情報共有が可能になり、スムーズに進められた。そしてチームワーク。サポーターと職員が共に協力しあう場面が多数見られたことはコロナ禍にあって大変心強いものであった。

参考

- 1) 「ねっ、図書館」ネットで図書館体験
<https://www.libra.titech.ac.jp/supp-event>
- 2) 2021年7月大岡山本館／すずかけ台分館を大岡山図書館／すずかけ台図書館に改称
- 3) 「東京工業大学附属図書館、大岡山図書館10周年記念動画を公開：設計者へのインタビューを収録」国立国会図書館 カレントアウェアネス・ポータル 2021.09.17
<https://current.ndl.go.jp/node/44830>
- 4) 東工大ニュース「図書館サポーターが動画で図書館の魅力を発信」2021.10.14
<https://www.titech.ac.jp/news/2021/062107>
- 5) 株式会社ブレインテック 図書館の情報サイト Jcross 「図書館の紹介動画」2021.10.19
<https://www.jcross.com/collection/cat-14/>

(ほそかわ・まき／

東京工業大学研究推進部情報図書館課)

「バーチャル学芸大図書館」の取り組みとオンライン館内ツアー

小野 令耶

はじめに

東京学芸大学附属図書館では2020年4月からの新型コロナウイルス感染拡大による休

館に伴い、オンラインで活用できるサービスの提供を行ってきた。

本稿では当館が主にホームページにおいてオンライン上で提供したサービスの紹介に加え、新型コロナ感染拡大下でオンラインで行われた2020年度および2021年度の図書館総合展でのオンラインツアーを取り上げ、新型コロナ下での当館での「バーチャル図書館」の取り組みを紹介したい。

1. 新型コロナ下におけるオンラインでの取り組み

当館のオンラインでの取り組みは2020年の新型コロナウイルスの感染拡大防止のための大学入構禁止、図書館の休館に伴ってスタートした。対面でのサービスが困難な中で利用者に図書館を活用してもらうため、郵送貸出やオンラインレファレンスなど在宅で利用できるサービスの整備を進めた。オンライン上で「空間」としての図書館を感じてもらう「バーチャル学芸大図書館」¹⁾もその一つである。

「バーチャル学芸大図書館」ではZoomをはじめとする各種ウェブ会議システム用に背景を配布した「バーチャル背景」、毎朝決まった時間に自宅からオンライン朝読書ルームにアクセスしてカメラの前で個々に読書する取り組みである「学芸大朝読書ルーム」²⁾、当館の開架書架を撮影し、その画像をウェブサイト上で書架と同様に表示することで書架を眺めて本を探す体験を再現した「デジタル書架ギャラリー」³⁾、館内の360度写真をGoogleマップから閲覧できる「Googleマップストリートビュー」⁴⁾の4つのサービスを提供した。

朝読書ルーム、デジタル書架ギャラリー、360度写真の撮影・投稿は当館と東京学芸大学Explayground推進機構の協働プロジェクト「Möbius Open Library (メビウス・オープン・ライブラリー)」として行った。前者

2つの取組みについてはnote⁵⁾において複数の記事にまとめられている。

上記に加え、令和3年度所蔵資料展示として、ホームページ上で電子展示「おもちゃ絵・絵双六で遊ぼう」⁶⁾を実施した。当館デジタルアーカイブ⁷⁾収録の資料を中心に、「おもちゃ絵」や「絵双六」の遊び方に注目した展示ページを2021年8月～2022年1月にかけて全6回で公開した。この展示は在宅期間中の学生に子供の文化に親しむきっかけを提供することを目的としている。

2. 図書館総合展への出展

2020年度および2021年度の図書館総合展はオンラインのみでの実施であり、図書館総合展自体がバーチャルな催しとなった。当館は両年とも参加し、当該年度の取組みの発表とオンライン館内ツアーをオンラインイベントとして行った。

2.1 「コロナ禍での「学芸大デジタル書架ギャラリー」の取り組み紹介とミニ館内ツアー」⁸⁾

2020年度は新型コロナ下における図書館サービスおよびデジタル書架ギャラリーの紹介と、感染対策に焦点を当てたオンライン館内ツアーを行った。オンラインイベントは2020年11月6日（金）13:00～13:50に実施し、事前申込者は90名、当日参加者は75名だった。図書館の各所を動画撮影し、ブックポストの常時解放、返却用ブックトラックの設置、座席の間引き、自動貸出機の利用推進など、感染対策を実施している箇所を紹介した。質疑応答では新型コロナ下での実際の運用について、多くの意見が寄せられた。

2.2 「リアルとバーチャルの学びの場～学芸大図書館新ラーニングコモンズと電子展示の紹介～」⁹⁾

2021年度は本学のデジタルアーカイブの取組みおよび電子展示の紹介と、当館が

2020年～2021年に実施した増築工事と新規エリアの概要を説明した後、増築部分を中心にオンライン館内ツアーを行った。オンラインイベントは2021年11月17日（水）14:00～14:50に実施し、事前申込者は60名、当日参加者は53名だった。増築を機に大幅に拡張した1階のラーニングコモンズ、新規に設置した2階のインフォメーションコモンズ、新たに貴重書庫を増設した地下書庫を動画撮影し、新規什器や設備を紹介した。新型コロナウイルス下での運用に対応したラーニングコモンズのフロアプラン（個別学習ブースの整備、パーティションの設置、座席数の調整）や、貴重資料の保全に配慮した書庫資料の移動（資料の無酸素パックへの封入、書架全体を汚染ガス吸着シートで覆う対応）について多くの反応が寄せられた。

2.3 実施体制と使用したツール

図書館総合展への出展は図書館内の常勤職員で構成されたWGから数名担当者を決め、担当者内で業務を分担して作業を進めた。各種申込や事務局とのやり取り、スライドの作成、動画の撮影・編集、進行表作成等については担当者間で適宜打ち合わせを行いながら進め、オンラインイベント当日は発表者とスライド共有・案内・各種ツール管理担当者を分けて実施した。

両年とも館内ツアー動画の撮影は職員のスマートフォンで行い、編集にはフリーソフト「AviUtl」を使用した。オンラインイベントでは配信ツールとしてZoomを使用したほか、質疑応答ツール（2020年度は「スグキク」、2021年度は「sli.do」）などを使用して質問の受付・回答を行った。イベント終了後にはアンケート（2020年度は「スグキク」、2021年度は「Forms」）を実施した。

2.4 実施しての感想

当館では両年とも同一のメンバーが主担当

となったこともあり、2年目のイベントは前年の反省を生かす形で実施できたように思う。前年の実施記録に助けられた部分も多かった。

各種ツールを用いての質疑応答も円滑に行うことができたが、参加者からの質問に一方的に答える形になるため、対面での見学会と比べて双方向のコミュニケーションにやや難があった。その一方でオンラインでの実施とアーカイブ配信により、旧来の現地に直接行くイベント形式では参加することが難しかった層にも当館の取組みを紹介することができた。

出展側としても参加者側としても図書館総合展という大きな催しの一部としてイベントを実施することはオンラインイベントのノウハウを身に着けるのにも大変有効であると感じた。次年度以降も引き続き参加できればと考えている。

おわりに

新型コロナウイルス感染拡大による休館や大学の入構制限は、既存のサービスを利用者に提供するにあたって大きな障壁となったが、反面今まで必要を感じつつも手を付けられずにいたオンラインサービスを強化する良いきっかけにもなった。筆者個人も動画作成やオンラインイベント実施など、挑戦するのにハードルを感じていたことにいくつか取り組むことができ、苦手意識が薄れたように思う。館内の感染症対策など対面サービスの整備と並行しての準備は困難を伴ったが、総合展等で参考となる事例に多く触れることができたのも大きな助けとなった。

新型コロナ下で整備したサービスは今後も継続していく必要があるが、教育研究活動におけるオンラインでのやり取りが前提となったことで、利用者のニーズも変化しているように思う。新型コロナが収束した後も、対面サービスと併用してより利用者にとって有用

な形でのオンラインサービスを模索していきたい。

(おの・れいや／東京学芸大学附属図書館)

(注)

- 1) <https://lib.u-gakugei.ac.jp/learning/online/virtual-library>
- 2) <https://lib.u-gakugei.ac.jp/mol/asadoku>
- 3) <https://lib.u-gakugei.ac.jp/mol/shoka>
- 4) <https://goo.gl/maps/zFUxsqZ6G6qHqzCD8>
- 5) https://note.com/mol_expg
- 6) <https://library.u-gakugei.ac.jp/digitalarchive/archivetop.html>
- 7) <https://lib.u-gakugei.ac.jp/about/exhibitions>
- 8) <https://lib.u-gakugei.ac.jp/news/20201120>
- 9) <https://lib.u-gakugei.ac.jp/news/20211208-0>

(参考)

高橋 菜奈子. 「場所」としての図書館機能のオンライン化：東京学芸大学オンライン朝読書ルームとデジタル書架ギャラリーの試み. 図書館雑誌. 2020, vol. 114, no. 11, p. 617-619.

来館できない新入生のための “バーチャル” 図書館ツアー

磯本 善男

1. はじめに

周知のとおり、2020年4月はCOVID-19感染拡大の最中であった。4月7日には千葉県に緊急事態宣言が出され、千葉大学附属図書館も臨時休館を余儀なくされた。4月は新入生向けのガイダンスが集中する時期であるが、このような状況から、ガイダンスを実施

することがほとんどできなかった。電子書籍や電子ジャーナルといった学外からも利用可能なコンテンツの拡充については、千葉大学附属図書館でも早くから取り組んでいたが¹⁾、新入生向けのガイダンス等は、結局、1年間ほとんど実施できなかった。

図書館の利用方法等のガイダンスを全く受けることなく1年を過ごした新入生が多数いる事態を、竹内比呂也附属図書館長も強く懸念し、筆者も参加していたガイダンス検討WGが中心となって、新入生向けのポータルサイトを構築することとなった。本稿では、この時の新入生向けポータルサイトの構築事例を紹介する。

2. ポータルサイト構築にあたって

この新入生向けのポータルサイトは、そのサイトを閲覧することで図書館の全体像が掴めるような、言わばガイダンスの代替となるものを目指した。構築にあたっては、「ログイン不要で閲覧できること」、「既存のコンテンツを可能な限り活用すること」、という2点に留意した。「ログイン不要で閲覧できること」については、気軽にそのサイトにアクセスできるようにするのが目的である。サイトをどこに構築するか、という点では、図書館ウェブサイトのコンテンツの一部とする、本学Moodleを使用する、本学契約のGoogleサイトを利用する、といった選択肢があった。この中から、可能な限りサイト構築の労力を減らし、学外からでもログインせずに閲覧できる、という要件を満たすGoogleサイトを選択した。

サイトのトップページには竹内附属図書館長による新入生に向けたメッセージ動画、新入生向けの図書館紹介の動画も掲載している。サイトのコンテンツの骨子は、以下の4つとした。

- ・図書館の感染症対策の紹介

- ・図書館ツアー
- ・図書館でできること
- ・図書館に来なくてもできること



ポータルサイトのトップページ

<https://sites.google.com/office.gs.chiba-u.jp/libraryguide/top>

このポータルサイトへは、附属図書館ウェブサイトのトップページにリンクバナーを配置し、そこから辿れるようになっている。



千葉大学附属図書館ウェブサイトのトップページ

<https://www.LL.chiba-u.jp/>

このバナーは、千葉大学アカデミック・リンク・センターのコンテンツ制作室が作成したものである²⁾。作成にあたっては、利用者の目を引くようなデザイン、サイズにすることに留意した。

3. “バーチャル”図書館ツアー

今回のテーマである「バーチャル」に該当するコンテンツは、このサイト中の「図書館ツアー」である。千葉大学附属図書館本館は、L棟、I棟、N棟、K棟の4つの棟から構成されており、そのコンセプトは以下のとおりである。

- ・L棟：Learning 熟考する図書館
- ・I棟：Investigation 研究・発信する図書館
- ・N棟：Networking 対話する図書館
- ・K棟：Knowledge 知識が眠る図書館

この図書館ツアーでは、位置が把握しやすいように、棟毎の設備を写真と説明文で紹介し、それとともにツアー動画を掲載している。

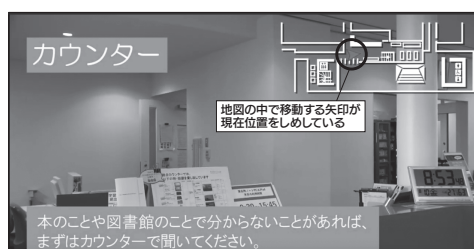


このサイトを構築する際に留意したもう1つの点は「既存のコンテンツを可能な限り活用すること」である。ここで使用しているツアー動画は2019年3月に、千葉大学のALSA-GSが主体となり、ALSA-TTの協力のもとに作成されたものである。

ここで、千葉大学の「アカデミック・リンク」というコンセプトとALSA (Academic Link Student Assistant) について説明しておく。「アカデミック・リンク」とは、千葉大学において「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成するために立ち上げられた教育・学習のためのコンセプトである³⁾。ALSAはアカデミッ

ク・リンクの活動をサポートする学部学生、大学院生で、専門分野の学習相談等を担当するALSA-LS (Learning Support)、技術的支援を担当するALSA-TT (Technical Team)、各種活動をサポートするALSA-GS (General Support) がある。

この動画は、「具体的な場所と館内の雰囲気」が把握しやすい」というコンセプトで作成された。このコンセプトもALSA-GSが自分たちで考えたものである。



撮影時には手ブレを抑えるスタビライザー（ジンバル）を使用し、場所毎のコンセプトが分かるよう、紹介文を動画に挿入している。また、先述したように、千葉大学附属図書館本館には4つの棟があり、図書館入口からそれぞれの目的地までの経路も複雑であり、自分が今いる位置が分からなくなることもあるため、現在位置が把握しやすいように地図を表示し、移動する矢印で現在位置を表示している。

4. その他のコンテンツ

「バーチャル」ではないが、このサイトの他のコンテンツも紹介する。

●図書館の感染症対策

利用者に感染症対策への意識を高めてもらうため、図書館が行っている感染症対策を紹介している。図書館入口のサーマルカメラ、手指消毒用のアルコールや、飛沫防止のためのアクリル板等の設備の紹介、COVID-19下の図書館サービスの詳細ページへのリンク

がある。

●図書館でできること

- 本を借りる・返す
- パソコンを使う
- グループで学習する
- メディア授業を受ける

COVID-19 渦中においても、メディア授業受講のための場所としても図書館は活用されていた。グループ学習室等も一部ではあるが2020年後半から利用を再開しており、それらの施設の利用方法をまとめている。

●図書館に来なくてもできること

- 図書館の本をさがす
- 電子ブックを読む
- 本の延長・予約・取寄
- レポートや調べものについて相談する

来館しなくてもできるサービスとして、蔵書検索や、電子書籍の利用方法、オンラインから利用できる調べ物相談（参考調査）、学習上の悩み・課題・レポートについての相談、PC等に関する全般の相談、英語のレポート・論文の書き方に関する相談等を紹介している。

5. おわりに

急造の感否めないが、図書館利用ガイダンスが例年のように対面で実施できない状況下において、このポータルサイトは一定の役割を果たしたと言える。とはいえ、このサイトを公開できたのは2021年3月下旬であり、2020年度に入学した新入生に図書館の使い方を紹介することがほぼ1年できなかったことは大きな反省点である。

非来館型サービスの拡充も勿論重要であるが、COVID-19の感染拡大を経験して、場としての図書館の重要性もあらためて認識させ

られた。来館が思うようにできない利用者に、場としての図書館を紹介するには「バーチャル」は非常に有効な手段といえる。新たに動画を作成する、というものでなくとも、既存の館内紹介写真の見せ方を工夫することでもある程度は実現することが可能である。

千葉大学附属図書館は、2022年3月を目途にウェブサイトの全面的な見直しを進めており、このポータルサイトを維持していくかどうかとも未定であるが、本学のこのポータルサイトの事例が、これから「バーチャル」な図書館紹介を作成しようとしている方々の参考になれば幸いである。

最後に、非常に短い期間で、実質このサイトの構築を1人で行っていただいた岩井愛子氏（東京大学附属図書館情報サービス課（2022年1月現在）/ 千葉大学附属図書館利用支援企画課（当時））に心から感謝の意を表したい。

- 1) 磯本善男, コロナ禍への対応：北海道大学と千葉大学の事例（特集：新型コロナウイルス感染防止対策～現場での取り組み～）, 大学の図書館, 2020, 39（11）, p.149-151.
- 2) コンテンツ制作室利用案内, 千葉大学アカデミック・リンク・センター, https://alc.chiba-u.jp/production_room.html,（参照2022-01-18）.
- 3) アカデミック・リンクとは？, 千葉大学アカデミック・リンク・センター, <https://alc.chiba-u.jp/concept.html>,（参照2022-01-18）.

（いそもと・よしお／

千葉大学附属図書館 isomoto@chiba-u.jp）

「桂図書館 Virtual Tour」紹介

長坂 和茂

1. 桂図書館概要

京都大学桂図書館は、2020年4月に開館した、京都大学桂キャンパスに所在する図書館です。

桂キャンパスは、工学部・工学研究科17専攻のうち材料工学専攻を除く16専攻の教員、大学院生、4年生以上の研究室所属の学部生が所属するキャンパスです（材料工学専攻のみ、吉田キャンパスに所在）。このため桂図書館は大学の主な役割「教育」と「研究」のうち、研究活動を支援することを主たる役割としています。（注1）

桂図書館は開館直前から、コロナ禍の直撃を受けました。本来であれば、新図書館の開館を大々的にアピールし、前期の授業と連携し、リサーチコモンズやオープンラボを活用してもらう予定でしたが、授業がオンラインに移行し、キャンパスに学生が来なくなったことで、それも出来なくなりました。

また、桂図書館には映像撮影・編集が可能なメディアクリエーションルームも設置を予定していたのですが、この時点では整備が完了しておりませんでした。

このため、新しい図書館が開館するという状況でありながら、図書館に来たことがある学生がほとんどいないという状態となりました。

2. Virtual Tour概要

そのような中、教員から、バーチャルツアーを実施することについて提案を受け、桂図書館でも導入することにしました。（注2）

バーチャルツアーでは、3Dカメラを撮影に使用し、画像をつなぎ合わせており、視点の位置を移動させることで、あたかも図書館内にいるような画面を、ディスプレイ上に表示することができます。

撮影は月末休館日を利用して2回に分けて行っています。また、桂図書館は東側の全面ガラス張りから京都市街地を一望する景色が売りのひとつなのですが、ここは内外の明暗差を出しすぎないように、スクリーンを下ろして外部の光を入れないようにして撮影したものを基本にしつつ、スクリーンを開けて景色が見られるようにしたバージョンも閲覧可能になっています。

撮影箇所は、入り口のある2階および閲覧室やグループ学習室などのある1階のみとしています。基本的には利用者が入ることができるスペースと一致していますが、当時未開設であったメディアクリエーションルームも、スタジオ以外は撮影対象となっています。一方、地下にある書庫スペースは現時点では利用者が入庫できないスペースであることもあり、撮影の対象外です。

また、各ポイントにおいて、場所の説明文とウェブサイトへのリンクを表示しています。この説明文については、何度か修正を繰り返して最終版としています。

3. 今後について

桂図書館は新しくできた図書館ですので、撮影した2021年度ははじめから、利用者が入れるエリアだけに限っても、状況の変更があります。具体的には先述した「メディアクリエーションルーム」の開設および、閲覧室南側壁面への長尾文庫（注3）の設置です。近日中にはこれらの変更点について再撮影を行い、今年度中に現状に合わせたアップグレードを予定しています。

2022年1月現在、いったんは少しは収まったかと思われたコロナ禍は第6波として日本を襲っています。この状況は今後も続くと思われる、図書館サービスのうち、図書館へ実際に来なくても提供可能なサービスは、図書館に来なくてもいいような仕組みを作る必要があると思われます。その点、現地に居なくて

も図書館の中を知ることができる桂図書館 Virtual Tour は、4 月以降の新年度において利用者への案内をする際に活用することが検討されています。

なお、2021 年 12 月 11 日に開催された「大学図書館研究会 東京・京都 合同企画「新図書館バーチャル見学会 ～大学内における位置づけと新たな役割～」」において筆者から本 Virtual Tour を活用することで桂図書館を紹介しました。本イベントの参加者報告が京都地域グループ報の 2 月号に掲載予定です。京都地域グループの会員は発行直後、非会員は半年後の 8 月から京都地域グループのウェブサイトで閲覧可能になる予定ですので、こちらも是非ご覧いただければと存じます。(注 4)

1) 桂図書館の建築物としての紹介としては「京都大学桂図書館」『近代建築』74 (10), 153-156, 2020.10

や、

「京都大学桂図書館（人とつながる建築：ともに価値と未来をつくる）」『近代建築』74 (12), 22-25, 2020.12

を参照。

筆者から桂図書館について紹介したものとして、

2020 年大図研第 51 回全国大会第 7 分科会(図書館建築・デザイン) https://www.daitoken.com/research/annual_conference/2020/section.html#pm (2021 年 1 月 11 日閲覧)

および

大学図書館研究会 東京・京都 合同企画「新図書館バーチャル見学会 ～大学内における位置づけと新たな役割～」

<https://www.daitoken.com/tokyo/event.html>
<https://www.daitoken.com/kyoto/event/20211211.html> (2021 年 1 月 11 日閲覧)

がある。

2) 桂図書館 Virtual Tour - 京都大学 桂図書

館 | 工学部・大学院工学研究科図書室

https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lib/ja/katsura_library/virtualtour (2021 年 1 月 11 日閲覧)

3) 長尾文庫は、京都大学元総長・名誉教授である長尾真先生(1936-2021)から、自宅の蔵書約 5,000 冊をご逝去の直前に京都大学桂図書館に寄贈頂いたもの。和書 4664 冊、洋書 306 冊、CD-ROM 7 枚の一大コレクションで、桂図書館 1 階閲覧室の南側壁面書架に設置されている。

https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lib/ja/katsura_library/collections/nagao (2021 年 1 月 11 日閲覧)

4) 大学図書館研究会 京都地域グループ Web サイト > グループ報(支部報) 目次

https://www.daitoken.com/kyoto/bulletin/bulletin_new.html (2021 年 1 月 11 日閲覧)

(ながさか・かずしげ／

京都大学桂図書館学術支援掛)

大学の図書館 第41巻第2号 (No.579) 2022年2月25日 (毎月25日発行) ISSN: 0286-6854
編集・発行: 大学図書館研究会 年間予約購読料: 送料共6,000円

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1 和光大学図書・情報館気付

Fax: (044) 989-2250 E-mail: shuppan@dainoken.com

<出版物購入代金等振込先> ゆうちょ銀行 振替口座: 00140-6-482205 大学図書館研究会出版部

三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座: 1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報メディア系 吞海研究室気付

E-mail: dtk_office@dainoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座: 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

2021/2022年度会費納入のお願い

大学図書館研究会事務局会費徴収担当

大学図書館研究会の会費は、会則第16条に定められているとおり、前納制です。

大学図書館研究会会則 (抄)

第16条 この会の経費は会費、事業収入および寄付金でまかない、会員は会費として年額5,000円を前納しなければなりません。

(中略)

4 この会の会計年度は7月1日より始まり、翌年6月30日に終わります。

会費納入がお済でない会員各位、会費の納入をお願い申し上げます。

グループご所属の方は、グループ活動費も合わせてお納めください。

会の安定的な運営のため、ご協力をお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

会費納入について: 事務局会費徴収担当 kaihi@dainoken.com

大学図書館研究会第53回全国大会のご案内

第53回全国大会が、以下の日程と内容で開催予定です。

詳細については、今後、大会Webサイト等で随時ご案内していきます。

日程: 2022年9月17日 (土) ~ 9月19日 (月・祝)

開催方法: オンライン形式

プログラム:

9月17日 (土)

・会員総会 ・研究発表 ・記念講演 ・交流会

9月18日 (日)

・課題別分科会

第1分科会: 大学図書館史

第2分科会: 利用者支援

第3分科会: 資料保存

第4分科会: キャリア形成

第5分科会: 学術基盤整備

第6分科会: 図書館経営

第7分科会: 図書館建築・デザイン

第8分科会: 出版・流通

9月19日 (月・祝)

・シンポジウム